

衆議院選挙2024の 模擬投票を終えて...

西宮市立浜脇中学校 3年生

実践の背景・目的

脇中学校では、毎週1記事生徒各自が関心をもって選んだ新聞記事を貼り付け、『感想・意見、察など』を書き込むNIEノートを作成している。の活動を通して、社会事象への関心が高まり、分ごととして捉えられるようになってきている。の経験を生かし、公民で学習する選挙につなげうと思ったから。

NIEノート



実践の方法

月15日公示、27日投開票の衆議院選挙24に合わせて模擬投票を行った。選挙区はわたちの地域である兵庫7区とした。投票用紙10月23日に配布し、27日までの5日間を投票期間とした。そして、休み時間や昼休みなどを使って投票するように呼びかけた。

投票用紙の配布



選挙の結果比較



4.生徒の感想

- ・まだ選挙権は持っていないけど、自分でどの政党に投票すれば日本をより良くしてくれるのか真剣に考えたこの経験は18歳になったら必ず役立つと思った。
- ・親や友達と衆議院選挙の話をするきっかけになったので、とても貴重な体験ができて良かった。
- ・自分も自分たちが住むこの日本に協力できたという気持ちになった。

○生徒の感想

- ・実際の投票結果と照らし合わせると、最も得票数が多かった候補者が違ったのに驚いた。そして、意見が異なるからこそ私たちのような若い世代も投票していく必要性を感じた。
- ・模擬投票を行う前には、私1人の投票で正直変わらないと思っていたが、出前授業で1票の価値がとても大きいことが分かった。18歳になったら選挙に参加し、よりよい社会にしていきたい。

5.実践者の感想

- ・事前に、神戸新聞社の出前授業や各新聞社のポータルサイトを通してどこに投票すべきなのか考えさせた。また、開票後には実際の結果と比較し、考察を行った。生徒たちは自分の1票をどこに投じるのか真剣に考え、実際の結果と比較して考察することができた。そして、1票の重みを実感できる経験となった。今後につなげ、選挙で自分の意思を反映してほしい。

出前授業

